



GROUNDSCAPE DESIGN INSTITUTE

GS 連続シンポジウム2009 まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる

第3回「うつぐみの心が紡ぎだしたもの、育ててゆくもの — 沖縄 竹富島」



2009年11月13日(金) 16:00-19:00 / 東京大学 工学部1号館2F 土木演習室

入場料 : 一般/500円 学生/無料

主催/GSデザイン会議 後援/土木学会 景観・デザイン委員会

<http://www.groundscape.jp/>

サポート / (株)アトリエ74建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・エー、(有)eau、伊藤鉄工(株)、(株)INAX、(株)イワタ、(株)内田洋行、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター、(株)GK設計、(株)住輕日輕エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル、日本工営(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、三菱地所(株)、ヨシモトポール(株)、(株)ワークヴィジョンズ



GS 連続シンポジウム 2009 まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる

GSデザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を越えた専門家間のデザイン体制(コラボレーション)の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。特に、複数の事業が絡み合ったまちづくりの場合、トータルな空間づくりが求められることから、コラボレーションという体制で多角的な視点から臨むことが重要となります。また、まちづくりは必ずと言ってよいほど様々な制約の中で行われます。これまでに実現した、成功とされるまちづくりの事例は、いわばその制約と懸戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多く存在しているはずです。GSデザイン会議ではこうした知恵の共有化に向けたシンポジウムおよび出版を企画し、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民へ情報を発信していきます。

その一環として行う本シンポジウム「まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる」では、まちづくりにあたっての予算措置、発注方法を含む設計体制、制度の運用や活用などに焦点をあてた実質的な議論を行っていきます。毎回全国各地の実際の事例を取り上げ、関わった方々から直接その思いや経緯などをお話し頂きます。第三回は沖縄・竹富島の取り組みから、まちづくりとまちなみ整備のあり方を問います。

プログラム

16:00-16:15	開会挨拶 篠原 修(GS代表/政策研究大学院大学教授)
16:15-16:55	基調講演 上勢頭 芳徳(喜宝院蒐集館館長)
16:55-17:15	基調講演 西山 徳明(九州大学芸術工学部教授)
17:30-18:50	パネルディスカッション+会場質問 進行役:中井 祐(GS/東京大学大学院准教授) パネリスト:上勢頭 芳徳(前出) 西山 徳明(前出) 桑子 敏雄(東京工業大学教授) 市村 次夫(小布施堂代表取締役)
18:50-19:00	閉会挨拶 田村 幸久(GS/大日本コンサルタント株式会社)
19:10-21:00	懇親会

登壇者略歴

上勢頭 芳徳 喜宝院蒐集館館長

1943年、長崎県生まれ。1974年、竹富島へ移住。島の景観と文化に感動し、以後、竹富島のまちづくりにのめりこみ、竹富島まちなみ保存調整委員会等で、中心的な役割を果たす。

西山 徳明 九州大学芸術工学部教授

1961年生まれ。博士(工学、京都大学)。京都大学工学部建築学科卒業。同大学院修了。同博士後期課程研究指導認定退学。1992年より九州芸術工科大学助手、助教授を経て2003年より現職。1998年より国立民族学博物館客員助教授(併任、2004年まで)。萩市・うきは市・八女市・朝倉市・雲仙市の伝統的建造物群保存審議会等委員、文化庁文化審議会分科会企画調査会委員など。

桑子 敏雄 東京工業大学教授

1951年、群馬県生まれ。1975年、東京大学文学部哲学科卒業。同大学院博士課程修了の後、1980年、東京大学文学部助手、1983年ケンブリッジ大学古典学部客員研究員などを経て、1996年より現職。2002年フランス政府招聘によるフランス国立社会科学高等研究院客員教授。博士(文学)。主要著作は、『感性の哲学』(NHKブックス)、『理想と決断』(NHKライブラリー)、『風景のなかの環境哲学』(東京大学出版会)、『空間の履歴』(東信堂)、『日本文化的空間学』(編著、東信堂)など。

市村 次夫 小布施堂代表取締役

1948年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。信越化学工業株式会社を経て、1980年株式会社小布施堂代表取締役、株式会社樹一市村酒造場代表取締役就任、現在に至る。長野県人事委員会委員長、長野県都市計画審議会会長、財団法人長野県国際交流推進協会理事など地域の要職を歴任。日本建築学会文化賞受賞(1998年)、デザインエクセレントカンパニー受賞(2005年)。現在も全国各地で講演を行い、小布施のまちづくり活動を発信し続けている。

中井 祐 東京大学大学院准教授

1968年生まれ。東京大学大学院土木工学専攻修了。(株)アブル総合計画事務所、東京工業大学社会理工学研究科助手、東京大学大学院工学系研究科助手等を経て、2004年より現職。工学博士。設計作品、設計指導に、岸公園(島根県)、宿毛河戸堰(高知県)、北上川分流施設(宮城県)、松田川河川公園(高知県)、第二西海橋(長崎県)、片山津水生植物公園(石川県)など多数。

第3回「うつぐみの心が紡ぎだしたもの、育ててゆくもの — 沖縄 竹富島」

沖縄本島から南西に約420km、石垣島からは高速船でわずか10分の距離にある竹富島は、司馬遼太郎が「カレー皿を伏せたような島」と記したように、とにかく平坦で起伏が少なく、山も川もない島である。島の周長約9km、人口350人ほどのこの小さな島に年間45万人もの観光客が訪れる。訪れた人が見るものは、赤い瓦屋根に白砂の道、珊瑚石灰岩の石垣、豊かな緑、そして青い海と空。それだけだ。しかしだからこそ美しい。ごまかしのない風景がここにはある。南国らしいゆったりと時間が流れる竹富島だが、その穏やかさの陰には多くの苦労が積み重ねられてきた。

17世紀の薩摩藩の琉球侵攻、明治政府による廃藩置県、戦後のアメリカ支配など、竹富島は外からの力に翻弄される時代が長く続いた。ようやく1972年に本土復帰が果たされたその頃、今度は外部の企業による開発の手が伸びはじめ、実際に島の2割以上の土地が買い占められてしまう。この事態に危機感を感じた住民は「竹富島を生かす会」を結成。この住民運動の展開がきっかけとなり、町並み保存の機運が高まっていくこととなる。

「売らない」「汚さない」「乱さない」「壊さない」「生きかず」。糸余曲折を経て1986年に定められた「竹富島憲章」は今なお続くまちづくりの基本理念に据えられており、翌年には集落全体が重要伝統的建造物群保存地区に選定。その後、観光地としても注目され始めた竹富島には観光客が殺到、集落にも観光化の波が押し寄せるが、町並み保存の姿勢は失われなかった。島人の生活は毎朝家の周りの道を掃き清めることから始まる。また年に2回は海岸から砂を運んで敷き詰め、美化に気を配っている。家屋の修繕や建て替えのために古い赤瓦などの古材は常に収集・保管し、「まちなみ館」の70メートルの石垣も自分たちで積むなど、できることは自分たちで取り組み、町並みを守り続けてきた。

一年を通して行われる行事も活発で、毎年行われる「テードウンムニ大会」では、おじいさんやおばあさんに教わった方言で子供たちがスピーチを披露する姿が見られる。豊穣祈願の祭りを合わせると祭事は年24回にも及び、秋の種子取祭には多くの芸能が奉納される。風土に根ざした行事に参加し、そして皆で町並みを守り続けていくことで、島人は心を一つにする大切さを学び、古来より伝わる「うつぐみ(=共同の意味)」の心を育んでいくのである。

竹富島は、現代の日本のまちが追求してきた利便性とは無縁である。しかし現在の島の人口の1/3は島外から移住してきた人たちだという。有り余る自然や文化の豊かさが利便性を凌駕し、そして何よりも日本人の忘れかけていた「うつぐみ」の心に人々は惹きつけられるのであろう。本シンポジウムでは、この小さな島が育んできた心のありようを通して、改めてまちに生きるとはどういうことかを見つめなおしてみたい。



写真1:石垣と木々に囲まれた家屋



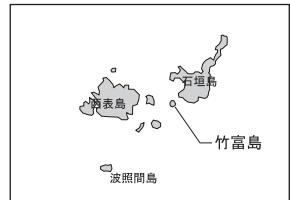
写真2:朝の掃除



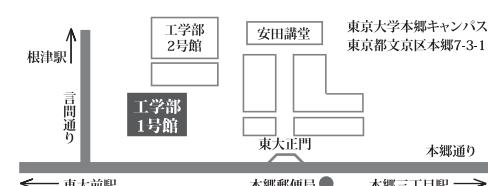
写真3:まちなみ館



写真4:観光客を乗せて曳く水牛



会場案内図



参加申込方法/

WEBサイト<http://www.groundscape.jp/sympo/091113/>の応募フォームからお申し込みくださいか、会員(個人・サポート・ユース)/非会員・氏名(ふりがな)・所属(会社名または学校名)・連絡先(メールアドレスまたは電話番号)・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにてG S デザイン会議事務局まで送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先/

G S デザイン会議事務局
電話:03-5805-5578 / FAX:03-5805-5579
Web:<http://www.groundscape.jp> E-mail:info@groundscape.jp